

ネヘミヤの用意周到な計画、資金面での配慮と自己犠牲、また、自衛のための武装、さらに、ペルシヤの将校たちを利用する強い姿勢によって、エルサレムの城壁の補修は完成しました。城壁の奉獻式にはシンバル、豎琴、琴にあわせて、詠唱、合唱隊を編成し喜び祝っています。けれども、彼らは帰還した新規入植者であり、エルサレムには取り残されていた人々、アッシリア、バビロンから移住してきた人々が住み、自分たちのやり方で生活していました。彼らにはイスラエルの再建は脅威となります。ネヘミヤはペルシヤ王から長官としての権限を受けていたのにも関わらず、様々な非難、脅迫、妨害を受けました。



Foto Marburg/Art Resource, NY

ネヘミヤは**警備**を堅くします。「日射しの暑くなる時まで、エルサレムの門を開いてはならない。また彼らが任務に就いている間に扉を固く閉ざしなさい。エルサレムの住民に守備態勢を取らせ、各自が自分の持ち場と、各自が自分の家の前を守るようにせよ。」(ネヘ 7:3)

**住民登録**をさせます。この折にエズラ記に記されている記録を発見しました。それにエズラの行った律法朗読の行事の内容と主だった人々の名前を追加して、記録を作り直しています。**仮庵祭の復興**も記しています。その時の祭司イエシュアたちの賛美の歌を記録しています。それは、「天地創造、アブラハムの選びと祝福の契約、民の背きの罪、モーセによる出エジプト、カナンでの平穩、民の悪と背き、遣わされた預言者、アッシリア、バビロン、ペルシヤの奴隷となっている」と現在に至るまでの民の歴史を歌っています。最後には悲しい嘆きの歌になっています。

御覧ください、今日／わたしたちは奴隷にされています。先祖に与えられたこの土地／その実りと恵みを楽しむように／与えられたこの土地にあって／御覧ください／わたしたちは奴隷にされています。この土地の豊かな産物も／あなたがわたしたちの罪のためにお立てになった／諸国の王のものとなり／わたしたち自身も、家畜も／この支配者たちの意のままに／あしらわれているのです。わたしたちは大いなる苦境の中にあるのです。」(ネヘ 9:36) エズラはまことに、わたしたちは奴隷にされています。しかし、わたしたちの神はわたしたちを奴隷のまま捨て去ることなく、ペルシヤの諸王がわたしたちに対して好意を抱くようにし、生きる力を与えてくださいました。(エズ 9:9)と感謝していますが、ネヘミヤたちは真の解放とは思えませんでした。再興を願って、**神への誓約**をしました。(1)この地の民との関係を断って、律法を守り実行する。(2)安息日を守る。(3)ヨベルの年(7年ごとの休耕、負債の帳消し)。(4)神殿税(年3分の1シエケル)と捧げものなどの戒めを決めて神殿をおろそかにしないと誓っています。

**居住区**を決めました。民の長たちはエルサレムに住みますが、それ以外の人々はくじで十人に一人はエルサレムに、残りはそれぞれの町々、村落に定住しました。祭司やレビ人の務めも決めました。そして、エルサレムを聖なる都とするために、安息日に商品の売買をすることができないように安息日の始まる前にエルサレムの城門を閉じ、安息日が過ぎるまで開けないようにしました。

ネヘミヤはエズラ記にも記されているように、**ユダの人々がアシュド人やアンモン人やモアブ人の女と結婚していることが、わたしに分かった。その子供たちの半数は、…ユダの言葉を知らなかった。わたしは彼らを責め、呪い、幾人かを打ち、その毛を引き抜き、神にかけて誓わせた。「お前たちの娘を彼らの息子の妻にしてはならない。彼らの娘をお前たちの息子の妻に、またはお前たちの妻にしてはならない。イスラエルの王ソロモンすらも、このようにして罪を犯したのではなかったか。」**(ネヘ 13:23)と、ソロモンをも引き合いに出して、断じました。ネヘミヤは壁の中で自らを堅く守り、恐ろしいほどの徹底的な排外主義によって、律法を重んじることが救いになると信じたのです。